

地歴公民 (日本史) 早稲田大学 文化構想学部 1/1

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式31問 (語句選択8問 正誤判定22問 年代整序1問) 記述式10問 計41問
分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問数は4題、小問数は41問で変化はなかった。語句選択問題は10問から8問、年代整序問題は2問から1問、記述式は12問から10問へと減少した。正誤判定問題は17問から22問と増加したが、「2つ選べ」の形式は7問から2問へと減少した。

出題の特徴

例年通り、大問4題が全て複数の時代にまたがるテーマ史問題であった。各分野からの網羅的な総合問題が続いているが、今年度は文化史の比重が高かった。時代別に見ると、近現代史からの出題は15問から9問へと減少(戦後史は5問から1問へ)したが、テーマ史で出題されるため必ず大問ごとに近代史が出題される。

その他トピックス

2022年度冬期講習「早慶大日本史」で「歴史書の編纂」「沖縄史」を扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	正誤判定 記述	原始～現代の琉球・沖縄の歴史	問4はアとオで悩んだかもしれない。オの大宰府政庁は筑前国におかれた。問5はイを誤文と判断するのは易しいが、それ以外の選択肢は正誤の判断が難しい。	標準
II	語句選択 正誤判定 記述	古代～近代の歴史の編纂	歴史書に関する問題は早稲田大学では頻出テーマなので、対策をしていれば高得点が取れただろう。問8は消去法でも正解できる。問9の「大日本史料」は難。	標準
III	語句選択 正誤判定 記述	平安時代～明治時代における寄付の歴史	文化史中心の大問であるが、基本的な問題ばかりなので取りこぼすことなく得点したい。問6は消去法で正解できる。	易
IV	語句選択 正誤判定 年代整序 記述	古代～近代の地誌と紀行文	問8の「名所図会」と問11の「風俗画報」は難。問9は『会津農書』の成立年代を判断するのが難しい。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

一部に少し難度の高い設問も見られるが、全体的に基本的な問題が多く、確実に正解を導き出せる学力が求められている。そのため、教科書の熟読や過去問を通じた確かな基礎学力を身につけなければならない。特に正誤判定問題は増加傾向にあるが、形式的に「2つ選べ」「XYZの組合せ」のタイプが減少しているため、解きやすくなり高得点争いになるだろう。また、政治史・外交史を主体とする学習に加え、早い段階から文化史・社会経済史など総合的な学習を進めよう。比較的平易な問題の多い文化構想学部ではわずかな失点が合否を分けることを、改めて肝に銘じてほしい。